

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 20 章 41～44 節 ＞

1 イエス様は「メシアはダビデの子」の何を問題とされているのか？

初めて聖書を読む方なら、ここを読んでも何を言っているのかさっぱり分からないと思います。聖書では、メシア（ヘブル語：ギリシア語ではキリスト）は神の民イスラエルに神様が与えると約束された救い主で、イスラエル王国を建国したダビデ王の末に現れるとされていました（サムエル記下 7:8 以下）。新約聖書も、イエス様の誕生物語の中でそのことを記しています（マタイ 1:17, 20、ルカ 1:27）。ですから、イスラエルの人々は「イエス様こそメシアだ、ダビデの血を引いているし」と言ったのです。では、ここでイエス様が律法学者（「彼ら」 41）に向かってこのことについて問われたのはなぜでしょうか？

2 人々が考えたことと神様が考えられたこととの間に起こるずれ。

人々が旧約聖書に（神様がなされた約束に）基づいてイエス様に期待を寄せたことは間違いではありません。しかし、人々がそこで期待した内容はダビデ王の様な王、つまり地上の王に見る内容にとどまっていたのです。そこでイエス様は、普通に考えれば意味が分からない詩編 110 編 1 節、「神様が、私（ダビデ）の主（メシアのこと）に、私の右の座に着きなさいと告げられた」という個所を示されたのです。このことから教えられることは何でしょうか？

3 分かったと思うなかれ、聖書の驚くべき内容を！

キリスト教の信仰は聖書に記された内容を信じる信仰です。ですから、聖書をどれだけ正しく深く読み取るかによって確信度が変わって来ます。ですから、聖書について、「大体分かった、こういうことなんだろう」とある所で決めつけて考えてしまうのではなく、聖書が語っている内容を追いつけることが重要なのです。この個所で言うなら、「イエス様は、天に上げられ、神様の右の座に着かれ、また来られる、そう詩編でも告げられている道を歩まれる救い主なのだ」としっかり覚えることが大事なのです。確かに、この後にイエス様に起こって行くことを考えると、イエス様は単に地上の偉大な王では終わらない、それをずっと超えた、神様だけができる恵みを私たちにもたらし下さった王、救い主であると言えます。このような内容を持つお方を信じて生きていくことが真のキリスト者を作り上げていくのです。